

UNICORN English Communication 1 を使ったモデル授業

予習・復習＋

ステップアップノート・エッセンシャルワークブック



獨協中学・高等学校教諭 岩倉隆幸

「予習のおともに！」

UNICORN English Communication 1には、副教材として「ステップアップノート」と「エッセンシャルワークブック」があります。ここではこの2つの概要を紹介し、それを使ったモデル授業の提案をいたします。

ステップアップノートブック

①概要

「ステップアップノートブック」（以下、「ステップアップ」）は、予習のための補助教材です。「予習ノート」という呼び方をする場合もあります。

予習を前提とする授業では、「教科書本文をノートに書き、わからない単語を辞書で調べ、本文に目を

通してくる（または本文を和訳してくる）」という指示を出す場合があります。ところが、高校1年ではそれぞれ今までやってきたやり方が異なったり、予習のやり方自体がよくわからないという生徒がおり、クラスや学年で統一され、かつわかりやすい指示を出す必要があります。

「ステップアップ」は、この一連のやり方をガイドし、授業でも使いやすいように設計された傍用ノートです。特に、英語の予習をどうやっていいかわからないという生徒向けに、段階を踏んで無理なくできるように構成されています。

章末には本文の内容理解を確認するための「オーガナイザー」があります。TF問題、タイトル付け、日本語での要約といった活動を通して内容の整理が促

されます。

②紙面構成

左側に教科書本文、右側にその課で扱う文構造・文法事項・表現の解説と なっています。

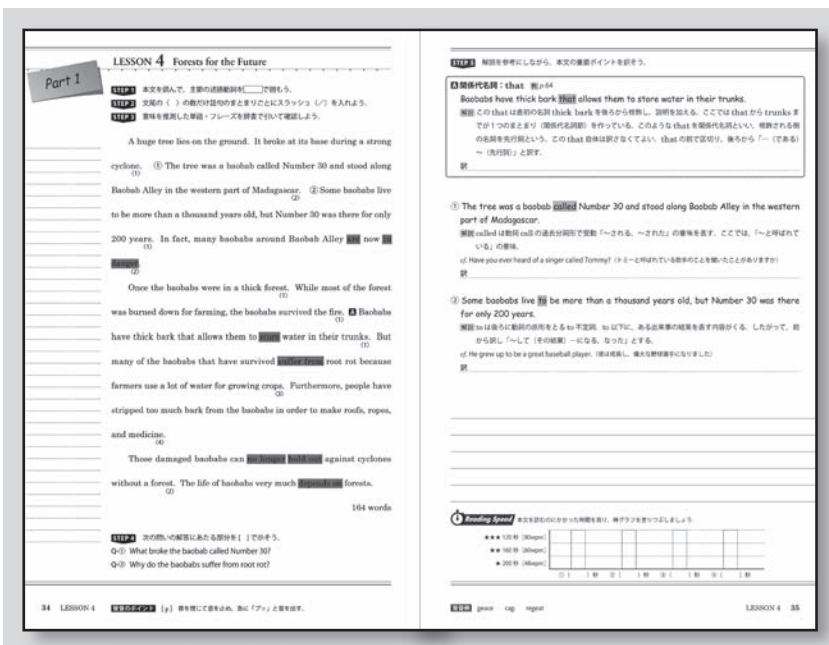
③予習内容

左右両ページにはSTEP 1からSTEP 5まで指示が出されています。

STEP 1

述語動詞を見つける

文の中心となる述語動詞に注目させます。また、述語動詞を中心にして前後の環境、すなわち主語・



ステップアップノートブック

目的語といった要素を把握し、「誰が何をどうした」という骨格となる部分を理解するよう促します。

STEP 2 まとまりごとにスラッシュを入れる

句・節といった統語上・意味上のまとまりに注目させ、明示的に区切りを記入させます。最初は丁寧に接続詞・前置詞が句や節を作ることを確認し、慣れてきたらまとまりごとに英語の語順に沿って理解できるようにします。

STEP 3 語句の意味を予測し、辞書で確認する

文章を読んでいて意味のわからない単語に出会うと、すぐに辞書を引いて意味を確認したくなりますが、前後の文脈から意味を予測することは、読解力を養うとてもよい練習になります。ただし未知語があまりに多いと予測できなくなりますので、いくつか絞って予測させるとよいでしょう。

STEP 4 設問の答えの箇所をカッコでくる

英語の設問は、教科書本文脇にあるものと同じです。本文の内容を把握し、質問に対して適切な根拠を本文中に求める習慣付けをします。

STEP 5 英文を日本語に直す

その課の文法事項を含む文、特に注意を要する文を抜き出して右ページに載せました。解説には和訳する際のポイントと、文法上の説明が書いてあります。

④オーガナイザー

内容に関する問いをまとめたものです。パートごとに授業内で解く時間をとってもよいですし、課が一通り終わってから総復習として扱ってもよいでしょう。

エッセンシャルワークブック

「エッセンシャルワークブック」(以下「エッセンシャル」)は、復習のための補助教材です。授業で学んだ内容と文法事項を確認し、定着を図ることができます。本冊は以下のような構成となっています。

①文法事項の解説ページ (LANGUAGE FOCUS)

文法事項の解説ページは、自学自習しやすいようにしました。既存の教科書準拠ワークブックは、各ページの上部に例文とまとめがコンパクトに記載されているものでした。これは理解できた生徒が確認す

るための「まとめ」のようなもので、読んで理解を促す「解説」ではありませんでした。

「エッセンシャル」では各課の冒頭2ページを割り、読んで理解できるように解説をわかりやすく書いています。このLANGUAGE FOCUSのページは、復習だけでなく、予習に用いることも可能です。また、教科書にあるLANGUAGE FOCUSのページと連動しており、そこで学習する暗唱例文 (LEARN BY HEART) を引用しています。

解説は、「本文の内容を理解する」ことを軸とし、英文解釈に必要な情報をできるだけシンプルに載せました。情報が多くなりすぎないように配慮し、文法的特徴などの触れておくべき点については、補足情報として下部に載せています。また、例文を文脈の中で登場させていて、「どんな場面でその表現を用いるのか」がイメージしやすくなっています。



LANGUAGE FOCUS (エッセンシャルワークブック)

②各パート基本問題

1パート1ページとなっています。それぞれのパートに対応した語彙・フレーズ・文法・内容理解の問題があります。解答は別冊となっており、自分で学習できるように解説を加えています。解説では関連語句などにも触れており、語彙をさらに広げることができます。

③総合問題

その課の単語・発音・フレーズ・文法・文構造のおさらいです。総合問題の最後には、本文に関連したテーマの長文を用い、読解力を養う問題演習があ

ります。課が終わった段階、もしくは定期考査前に扱うと効果的でしょう。

ステップアップとエッセンシャルを使った授業案

「ステップアップ」と「エッセンシャル」を併用すると、予習・復習のやり方が明確になり、生徒の側も取り組みやすく、教員の側もプリント類を作る手間と労力が削減できます。

以下では、本文の導入と内容理解を踏まえ、まとめの活動として「ストーリー・リプロダクション」を生徒に行わせることを目標とします。これは写真やイラストを用い、それを黒板に貼りながら英語で内容を説明するというものです。最終的には、自分で選んだテーマについて、写真・イラスト・図表を使い、英語でプレゼンテーションができるようになることを目指します。

<授業案>

【教科書】UNICORN English Communication 1

Lesson 4 Forests for the Future

第1時間目(Part 1)

【手順】

① WARM-UP (4分)

教科書 Lesson 4 の最初のページにある写真・地図を見ながら、WARM-UP の CD を再生します。まず説明文が流れ、その後3つの質問文が流れます。生徒は答えを選択肢から選び、答え合わせをしながら、本課のテーマとなるマダガスカルについて説明を行います。

②ステップアップノートによる本文導入

「ステップアップ」を開かせ、段階に従って予習の取り組みを確認すると同時に、音読や内容の解説を行います。

STEP 1 述語動詞(4分)

生徒を指名し、各文についてどの単語を四角で囲んだかを確認します。さらに、述語動詞の意味と、動詞の形を確認します。これは、述語動詞をとらえて文の中心にある意味を理解すること、大まかに本文の内容をイメージできるようになることがねらいです。

また、動詞の形から時制・態・相・法など文法的な特徴を判断し、それを訳に反映させることは多くの生徒にとって難しく、なんとなく理解したつもりになってしまうがちです。授業ではこの点に気を付けて解説をします。

STEP 2 スラッシュ(4分)

どこで区切れるかを確認すると同時に、まとまりごとの意味も確認します。「最初の文は lies の後ろで区切れますね」と明示的に言うこともできますが、慣れてきたら本文を区切りながら音読することで、よりスピーディーにできます。生徒はそれを聞きながら本文に書き込みます。場合によっては区切るかどうか悩ましい箇所もありますので、さまざまな区切り方の可能性を提示します。

STEP 3 新出語・音読(10分)

文全体の内容から単語の意味を推測することが狙いのひとつですので、赤字・網掛け以外の箇所から文全体の内容をとらえ、そこから新出語句・表現の意味を考えます。生徒は既に辞書で意味を調べた上で授業に参加していますが、文の内容をたずね、生徒とやりとりしながら、赤字・網掛けと各文の内容を正確にとらえることが目標です。

STEP 2・3 で文の切れ目と内容を理解できますので、この段階で音読の活動を行います。スラッシュごとに分けて教員が音読をし、それに続けて生徒が音読(斉読)をします。慣れてきたら教科書から目を離し、文字を見ないで耳に集中し、斉読をします。音読上の注意点やポイントを指摘した上で、個人読みで練習の時間を取り、数名指名して音読がどれくらいできているかチェックします。

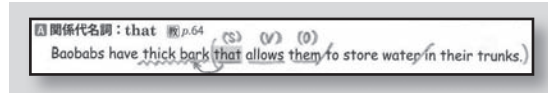
STEP 4 本文に関する質問(6分)

生徒を指名し、①設問の内容がわかっているか、②答えに該当する箇所がわかっているか、の2点を確認します。さらに、設問に対しどのような形の英文で応答したらよいかを確認します。その際、適切な代名詞を用いることや、質問で問われていることに対して的確に答えることなどに留意します。

STEP 5 文法事項の説明と和訳(8分)

右ページのそれぞれの文について、文法事項を説明し、訳がどのようになるのかを確認します。

A 関係代名詞



文法事項の説明例

右ページの本文、赤い網掛けの箇所に注目します。この **that** が先行詞を修飾する関係節を作っていることを () と矢印で記入させます。さらに、関係節内では **that** 自体が主語として機能していることを示します。訳す場合には、後ろから修飾する点に対応して、関係節から先に訳すと説明します。

①名詞を修飾する過去分詞

called が過去分詞形で受動の意味を表し、**called Number 30** が直前の名詞 **a baobab** を修飾していることを説明します。

②結果の to 不定詞

to 不定詞の意味を前後の文脈とあわせて考えます。この **to** 不定詞は、ある行為の結果どのような状態になったかを示します。この場合にはバオバブの木が長年生きて、1000歳を超えるまでになった、という話ですから、直訳すれば「生きて1000歳以上になる」となり、「1000年以上生きるバオバブもある」と理解してもよい、と説明します。

③ストーリー・リプロダクション(10分)

本文の内容に沿った写真や絵を黒板に貼っていき、それを軸にして本文の内容を再演します。教科書の本文を丸暗記する必要はなく、ポイントとなる箇所・表現を選んでつなげていきます。まず教員が模範を示しながらキーワードを与え、絵の下に書いていくとよいでしょう。

その後、生徒を指名し前に来させ、黒板の絵・写真・キーワードを使いながらストーリー・リプロダクションを行います。その際、黒板をずっと見たままやるのではなく、英語を話すときには生徒たちの方を見て伝えることに留意します。

④オーガナイザー(3分)

「ステップアップ」の課末にある内容確認問題2題を解かせ、その場で答え合わせをします。





⑤課題の指示(1分)

「エッセンシャル」のLesson 4 Part 1を課題とし、家庭学習で解いてくるよう指示します。

おわりに

以上、予習・復習の補助教材の説明と、それを使用したモデル授業の提案をいたしました。それぞれの学校の状況に応じて使い方を調整していただくことでより効果的になると思います。勉強の仕方をガイドし、予習復習を促す教材としてご利用いただければ幸いです。

写真・地図とリプロダクションの例

(1)		We can see baobab trees along Baobab Alley in Madagascar.
(2)		One baobab tree broke at its base. Baobab trees are in danger.
(3)		People burned down the forest.
(4)		They stripped too much bark from the baobabs. Those damaged baobabs can no longer hold out.